

表彰受賞者の紹介



2023年度にJAHISの委員会あるいはプロジェクト等の活動において、以下の方々が受賞されました。

奨励賞 戦略企画部 調査委員会

売上高調査システム刷新対応への貢献

調査委員会 委員
(日本電気㈱)

うえしん まい
上新 真衣



受賞理由：

調査委員会がJAHIS創立以来より毎年実施している、当業界の市場規模を示す売上高調査のシステム刷新開発を2023年度に実施した。上新委員は2023年2月より調査委員会に参画し、同年4月より売上高システム刷新対応のタスクフォースメンバーとして、要件定義から受入試験まで一連の工程に参画した。

システム要件定義では、新規参画者ながら利用者目線で操作性等の意見提言を行い、要件定義の策定に貢献した。受入試験時は、年度末で自社業務が繁忙の中、各委員が仮想会社として模擬的に登録した売上高データと新システムから出力される各種調査結果データの突合検証を担当し、システム結果が正しく出力されることを確認し、委員会で報告を行った。また、操作性に関する受入試験においても不具合、改善案を積極的に提示し、年度内のシステム更改完了に貢献した。

上新真衣さんのコメント：

戦略企画部 調査委員会のNEC上新です。

この度は、2024年定時社員総会におきまして表彰をいただき、誠にありがとうございます。対象の

活動にあたりご指導いただいた調査委員会の皆様、ならびに、賞選考に関わった皆様に厚く御礼申し上げます。

調査委員会では、当業界動向の把握に大きく貢献している「売上高調査」及び、「システム導入調査」を中心とした企画推進と活動を行っております。

2023年度は、売上高調査の回答結果の質の向上と、会員の皆様の業務効率化を目的に、売上高調査システム刷新開発を行いました。

具体的には、売上高調査システム刷新タスクフォースにて、要件定義から受入試験までの一連の工程に参画させていただき、特に受け入れ試験でのテストデータによる入力結果と出力結果の突合及び、妥当性の検証を担いました。

JAHIS委員会活動への参画も2023年2月からの新規参画者であったこともあり、本タスクフォースでの活動を通して、日々業務で活用している業界データが調査委員会での創意工夫のもとに広く収集され、精度高くまとめられていることを改めて学ばせていただきました。

今年度より調査委員会2年目となりますが、今後も業界で必要とされるデータの発信に寄与できるような活動を続けてまいります。引き続きご指導・ご支援くださいますようお願い申し上げます。

奨励賞	医療システム部会	検査システム委員会 臨床検査システム専門委員会 委員 (株)エイアンドティー ふかがわ かずなり 深川 一成 
IHE-PaLM国際会議への積極的なキャッチアップ		

受賞理由：

臨床検査システム専門委員会の年度計画活動の一環である、「海外活動強化とJAHIS活動との連携（IHE-PaLM 国際会議の参加）」において委員登録から間もない中、IHE-PaLM国際会議の参加メンバーへ新たに加わり、当専門委員会内へ情報共有を行った。

深川一成さんのコメント：

臨床検査システム専門委員会に参加しておりますエイアンドティーの深川です。この度は定時社員総会におきまして表彰していただき、誠にありがとうございます。JAHIS参加初年度ではありましたが、IHE PaLM定期WEB会議参加及び、ポルトガルで開催された国際会議へ参加させていただきました。今回光栄なことに奨励賞を頂きましたが、JAHISのIHE PaLM会議への継続参加の礎があってこそその受賞と思っております。標準化の国際的な動向を把握するだけでなく、日本側から国際標準へアプローチしていけるかを考えつつ、今後も活動を継続していきたいと思っております。

奨励賞 事業推進部	事業企画委員会 副委員長 (富士フイルム株) さいとう ひで お 齋藤 英夫	
オンデマンドセミナー用ツールの評価および導入推進		

受賞理由：

2023年6月より事業企画委員会に参画し、長年にわたり会員から要望があったオンデマンド形式でのセミナー開催に向けたツールの検討を前任者より引継ぎ、ツールの評価、運用組立、実行部隊への引継ぎを終了させた。

ツールの評価においては、実際の運用を想定した運用を組み立てた。また評価者として、委員会内部のメンバーに加え、会員会社の社員を募ることにより、40名を超える人員を集め、多角的な評価データの収集を実現した。収集データの分析とツール特性を総合的に判断して採用を決定した。

採用に向けては運用のための資料を作成する傍ら、ツール提供会社との折衝も担当し、2024年度の教育コース（医療情報システム入門、介護請求システム入門）での採用に繋げた。

功績賞 医療システム部会	部門システム委員会 物流システム専門委員会 専門委員長 (富士通Japan株) おかもと しげとし 岡本 重敏	
HIS向け医療材料マスタの提供ガイド Ver.1.2の制定		

受賞理由：

JAHIS技術文書「HIS向け医療材料マスタの提供ガイド」の改定にあたり、作成に携わる会員各社との意見調整や、制定にあたりポイントとなるGS1 Japan（一般財団法人流通システム開発センター）との連携や調整等において、中心的な役割を担って活動を牽引し、2024年3月「HIS向け医療材料マスタの提供ガイドVer.1.2」を制定した。

岡本重敏さんのコメント：

医療システム部会 物流システム専門委員会の富士通Japan株式会社の岡本です。

この度は2024年度社員総会において功績賞で表彰いただき誠にありがとうございます。

今回は物流システム専門委員会の活動で「HIS向け医療材料マスタの提供ガイド」の改定を行いました。

今回の改定では、最新の標準内容など現状に則した状況に合わせた修正を行い、医療機関内における標準コード（GS1バーコードなど）の利活用を更に促進し、医療安全や業務改善などへの寄与を期待するものとなります。

今後も引き続き、保健医療福祉情報システム工業会を通じて、日本の医療に貢献できるよう皆様のご指導とご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

功績賞 医療システム部会 JAHIS「製造業者/サービス事業者による 医療情報セキュリティ開示書」ガイド Ver.4.1（MDS/SDS）の制定等	セキュリティ委員会 JAHIS-JIRA合同開示説明書 WGリーダー (株)グッドマン しものかねき 下野 兼揮 
---	---

受賞理由：

JAHIS-JIRA合同開示説明書WGリーダーとして改定作業をリードし、JAHIS標準「JAHIS『製造業者/サービス事業者による医療情報セキュリティ開示書』ガイドVer.4.1（MDS/SDS）」の制定作業を完遂し出版した。

また、WGリーダーとしてチェックリスト改定、安全管理ガイドライン第6.0版対応マッピングシート作成などの作業をとりまとめ、適切なタイミングで公開を実施した。

医療法改正に基づくチェックリストにMDS/SDSが掲載されたことにより、JAHIS会員や会員外から関連質問が大量に来るようになったが、戦略企画部と協力して適切に対処を実施した。

下野兼揮さんのコメント：

セキュリティ委員会JAHIS-JIRA合同開示説明書WGのリーダーを2024年3月まで務めさせていただいた下野です。この度は第14期定時社員総会におきまして表彰していただき、ありがとうございます。

2022年9月に「製造業者/サービス事業者による医療情報セキュリティ開示書」ガイドがHELICS指針として採択され、2023年には、厚生労働省から発行された「医療機関におけるサイバーセキュリティ対策チェックリスト」の中で、「製造業者/サービス事業者による医療情報セキュリティ開示書（MDS/SDS）」の提出がチェック項目として掲載されたことによりMDS/SDSの普及が一気に進みました。WG発足時からのメンバーとして、ようやく普及したことに喜びを感じるとともに、その重責を感じています。

現在は最新の「医療情報システムの安全管理に関するガイドライン第6.0版」に対応した「製造業者/サービス事業者による医療情報セキュリティ開示書」ガイドVer.5.0を発行するための最終段階の作業を行っています。今後も医療情報システム/サービスのセキュリティ向上の一助となるべく、MDS/SDSの普及推進に努めていきたいと思っています。

功績賞 医療システム部会	セキュリティ委員会 セキュアトークンWGリーダー (株)リコー やちだますよし 谷内田 益義 
セキュアトークン関連のJAHIS技術文書およびJAHIS標準の改定等	

受賞理由：

セキュアトークンWGリーダーとして改定作業をリードし、JAHIS技術文書「JAHISセキュアトークン実装ガイド・機器認証編Ver.1.1」、「JAHISセキュアトークン実装ガイド・ノード認証編 Ver.1.2」の制定作業を完遂し出版した。また、JAHIS標準「JAHIS HPKI対応ICカードガイドラインVer.3.1a」の制定作業を進め、原案審査、パブリックコメント対応は終了し、2023年3月の医療システム部会で最終原案が承認された。2024年度に制定予定である。

また、WGリーダーとして3つのJAHIS標準類の改定にあたり、適切なWG運営を行い、円滑に改定作業を実施した。

JAHIS技術文書「JAHISセキュアトークン実装ガイド・機器認証編Ver.1.1」の付属文書として実装例を作成した。

谷内田益義さんのコメント：

この度は第14期定時社員総会において功績賞にて表彰いただきまして、誠にありがとうございます。今回の表彰は、セキュリティ委員会・セキュアトークンWGの活動として行った2つのセキュアトークン実装ガイド及びHPKI対応ICカードガイドラインの改定版の発行によるものです。これら3件のJAHIS標準類の改定は、厚労省の「医療情報システムの安全管理に関するガイドライン」が第6.0版へ改定されたこと及び技術の進展に合わせて旧版の内容を見直したものです。情報セキュリティに関する意識は年々高まってきております。今回改定した標準類が医療情報システムの安全性向上、特に認証基盤の普及・推進に寄与できれば幸いです。

これらの標準類の改定作業におきましては、WGメンバーの皆様に多大なご協力をいただきました。この場をお借りして感謝申し上げます。

功績賞 医療システム部会	相互運用性委員会 注射処置標準化WGリーダー (日本電気(株)) にしおか たろう 西岡 太郎 
JAHIS注射データ交換規約Ver.2.2Cの制定	

受賞理由：

注射処置標準化WGリーダーとして改定作業をリードし、2024年1月にJAHIS標準「JAHIS注射データ交換規約Ver.2.2C」を制定した。

功績賞 医療システム部会	相互運用性委員会 次世代データ交換技術WG リーダー (株)ファインデックス) みやかわ りき 宮川 力 
次世代データ交換技術WGの立ち上げおよび 学会講演	

受賞理由：

新設された次世代データ交換技術WGリーダーとして、第43回医療情報学連合大会のチュートリアルA-6（第87回HL7セミナー）において、本WGの活動内容をまとめて講演を行い、この新しい技術標準に対するJAHISの取り組みを学会参加者にアピールすることができた。

本WGは次世代のデータ交換技術であり、医療DXでも採用されているHL7 FHIRなどの新しい技術標準について、卓越した知識とスキルを発揮して情報共有と意見交換をリードした。

宮川力さんのコメント：

この度は、JAHIS次世代データ交換技術WGの活動に対し、功績賞という栄誉ある賞を賜り、誠に光栄に存じます。WGメンバーと共に活動してきた成果が認められ、大変嬉しく、誇りに思います。

次世代データ交換技術WGは、医療DXにて積極的に採用されているHL7 FHIR（以下、FHIR）を中心に情報交換・知識共有・勉強会を通して会員企業のスキルアップを目的として活動しています。FHIRは、技術者にとって明確で理解しやすい仕様が用いられており、データ交換に用いるにはとても優れた技術です。また、利用のための環境も整備されています。

しかしながら、この技術を身に付けようとしても、体系的に勉強するための情報は少なく、技術習得のための環境整備は十分ではありませんでした。どこから調べたらよいか分からないなど、多くのWGメンバーが情報収集に苦労していた状況です。

そこで本WGでは、すでに学んできたメンバーに、どのように技術を身に付けることができたのかを情報提供してもらったり、WGメンバーにわからない点や困っている点をヒアリングするなどしてきました。また初学者に向けてFHIRの基礎を解説する勉強会を定期的に開催しました。これらの活動を通して、参加者にとって学ぶためのよいきっかけを提供できたと自負しています。

今後は、WGメンバーが初学者を脱し、具体的に製品やサービスにこれらの技術を安心して載せられるまで成長してもらうことを目標としています。また、「HL7 FHIR」の正しい解釈を身に付けてもらい、教える立場になってもらうことも目指しています。

データ交換は、多くの企業が参加することで、医療DX全体の利便性がより一層高まります。未経験の企業だけでなく、すでに技術を習得している企業も、ぜひWGにご参加ください。

引き続き、ご指導、ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

功績賞 医療システム部会	相互運用性委員会 データ互換性専門委員会 専門委員長 (富士通Japan株) くぼた なるしげ 窪田 成重 
診療情報提供書FHIR記述仕様の マルチベンダでの国内初の実装検証	

受賞理由：

データ互換性専門委員会専門委員長として、今年度のデータ互換性実証実験を2/19～2/22にかけて開催した。厚生労働省標準であり医療DXでも採用されている診療情報提供書HL7 FHIR記述仕様に沿ってシナリオを作成し、診療情報提供書の実装検証を行った。この実装検証は、HL7 FHIRによるマルチベンダでの診療情報提供書の検証としては国内初で、電子カルテベンダ3社が参加し、全社参加シナリオすべて合格となった。実験を通してHL7 FHIRや記述仕様に関して様々な知見が得られ、今後の医療DXの実装に向けて有益な実験となった。

実証実験の成果として、報告書および実験で使用したHL7関係のツールを一般向けに修正した「HL7メッセージ作成支援ツールVer.1.11」を作成した。

功績賞 標準化推進部会	国際標準化委員会 委員 (キヤノンメディカルシステムズ株) しおかわ やすなり 塩川 康成 
JAHIS国際活動活性化への貢献 (10回の国際会議への対面参加と情報共有)	

受賞理由：

コロナ禍明けまもなくで海外渡航が困難な年度初頭から、下記10の国際会議に対面参加し、会議の内容等を報告書にまとめ情報共有を行うとともに、JAHIS国際活動の活性化に大いに貢献した。

- ①HIMSS23シカゴ大会（2023年4月）、②HIMSS23 EU リスボン大会（6月）、③RSNA2023（11月）、④IHE Radiology Planning & Technical Joint Committee（11月）、⑤IHE International Board（11月）、⑥DICOM DSC（11月）、⑦IHE Radiology Technical Committee（2024年2月）、⑧HIMSS24オランダ大会（3月）、⑨IHE Global Deployment Committee（3月）、⑩IHE International Board（3月）上記対面参加の他にも、DICOM DSC（2023年8月、2024年3月）等に、オンラインで参加した。

※なお、上記国際会議の中での以下のような活動によって、日本およびJAHISのプレゼンス向上に貢献した。

- ①11月のIHE Radiology Technical Committeeでは、日本IHE協会と協力して、日本コネクタソンにおけるCAM（Contrast Administration Management）プロファイルの試行検証の報告を行った。このことによって造影剤情報の重要性への議論に発展し、来年度のEUコネクタソンで募集をかけたい、との声があがった。
- ②2月のIHE Radiology Technical CommitteeにおいてIDR（Imaging Diagnostic Report）プロファイル TI（Trial Implementation）原案文書レビューの際に、FHIRでの実装要件の中で日本側の解釈と相容れない課題箇所について指摘を行い、審議を喚起させることができた。

塩川康成さんのコメント：

国際標準化委員会にて、IHE、DICOM、RSNA、HIMSSエキスパートを拝命しております塩川です。米国ではTEFCA*、欧州ではEHDS**をはじめ、国際の間ではIPS***も含めクロスボーダーでの医療情報共有網の整備が進行しております。その相互運用性を担保するキーワードとして、HL7、DICOM、そしてIHEが挙げられます。特に医療ワークフローにおける国際標準規格の使い方を規定し、ガイドラインとして整備しているIHEは、1998年にHIMSSとRSNAの出資により誕生しました。20年を超える国際活動の結果、実際の医療現場への実装を支援できるノウハウを持つ国際組織として大きなプレゼンスを発揮しています。日本においては日本IHE協会様がIHEの身内としてのDeployment Committeeの位置づけで活動されていますが、Membershipではないため、一部ドメインでのIHE要件定義に対する投票権を持ってない、などの制約がございました。そこで筆者提案の上、JAHISは2021年にIHEのMembershipとして登録をいたしました。IHEに対する日本としての意思表示やプレゼンスの発揮をより強化すべく、日本IHE協会様ともさらに協調して、IHEへの関与を続けていきたいと思っております。筆者は2023年に国際標準化委員会の委員に着任する以前より、エキスパートとして国際イベントや会議への出席の場をJAHISより与えていただき、たいへん感謝をしております。その場で得た情報をJAHIS内にて共有するのは当然のことと考えておりましたが、この度、思いがけず功績賞まで賜り、重ねての感謝の念を申し上げますと共に、JAHISを通じた日本の医療DXの推進に益々の貢献ができればと存じます。有難うございました。

* Trusted Exchange Framework and Common Agreement：米国における各地の地域医療情報連携網を同一の思想で相互共有するためのガバナンスを米ONCが規定

** European Health Data Space：欧州における医療情報の1次、2次利用を推進すべく、各国の医療情報共有網より、欧州統一の要件に従い相互情報共有を行うためのEU規定

*** International Patient Summary：国際間での医療情報を診療の観点から、最低限必要な情報を中心に共通情報項目要件を定義した。ISO 27269国際標準。

功績賞(連名) 医事コンピュータ部会	介護システム委員会 医療訪問看護報酬改定対応 WGリーダー (株)日立システムズ たかはし かずひこ 高橋 和彦	
トリプル報酬改定と並行しての訪問看護レセプトの オンライン請求対応、オンライン資格確認対応の遂行	同 サブリーダー (株)南日本情報処理センター いまむら まさのり 今村 将訓	
同 サブリーダー (株)カナミックネットワーク いしかわ りゅうた 石川 竜太		

受賞理由：

かつてない介護システム環境の激変のさなか、訪問看護の診療報酬改定対応、オンライン請求、及びオンライン資格確認対応において、関係機関との連携・調整・意見具申、要望や疑義照会とりまとめ、対外活動などにおいて、中心的な役割を担い、WG運営と会員様サービス向上に大きく寄与した。

1. 厚生労働省の「訪問看護療養費のレセプト電子化及びオンライン請求の促進事業に関する調査事

業検討会」の対外活動

⇒対外活動で得られた情報を適時適切に会員へ共有することで対応の円滑化が図られた。

2. 事業者団体（公益財団法人 日本訪問看護財団様）との連絡調整ルートの新規確立

⇒事業者側の状況把握が行いやすくなり、現場の実態に即した対応や会員への情報提供ができるようになった。

3. 会員からの疑義照会を収集し、複数の疑義照会ルートを駆使して回答をとりまとめ、ファイル共有サービスで会員にレスポンス良く情報発信し、新運用となるオンライン請求、オンライン資格確認の準備のスムーズな推進に貢献した。

令和6年度報酬改定：厚生労働省 18件中、5件回答

オンライン請求：クニエ（事務局窓口）38件中、37件回答

オンライン資格確認：支払基金 263件中、227件回答

4. 多数の情報入手ルートからの情報を適時、適切に整理し、情報提供資料にまとめて委員会、医療訪問看護報酬改定対応WGの場で説明を実施したり、ファイル共有サービスで会員にレスポンス良く情報発信することで、会員のスムーズな対応に貢献した⇒58回（3月末まで 説明会等を含む）

功績賞(連名)	医療システム部会	セキュリティ委員会 HPKI電子署名規格作成WG リーダー (株)NTTデータ ありま ぐにはる 有馬 一閣 	
JAHISヘルスケアPKIを利用した医療文書に 対する電子署名規格の改定等		同 メンバー (三菱電機インフォメーションシステムズ(株)) さかまき かずのり 酒巻 一紀  同 メンバー (三菱電機(株)) みやざき かずや 宮崎 一哉 	

受賞理由：

JAHISヘルスケアPKIを利用した医療文書に対する電子署名規格Ver.3.0の制定において主導的な役割を果たし、新規性の高いJAdESフォーマットの組み込みを実施した。また、ISO/TC215におけるフィードバックをJAHIS標準原案に反映し、国際標準との整合性を確保する作業を実施し、2023年3月制定した。

上記の成果をISO/TC215WG4にて改定中のISO17090-4（HPKIを用いた電子署名）に対するINPUTとして作成し、JAHIS標準とISO17090-4の整合性確保について貢献した。（ISO17090-4は現在CD投票の直前まで来ており、JAHIS標準との整合性を確保した状態となっている）

電子カルテ情報共有サービスの検討において電子署名の必要性や形式について検討を実施し、JAHISと厚生労働省、支払基金等との検討会議にて意見具申を行い、電子署名フォーマット策定に対する貢献を行った。

代表の有馬一閣さんのコメント：

セキュリティ委員会HPKI電子署名規格作成WGでリーダーを務めております有馬です。この度は、第14期定時社員総会で表彰頂き、誠にありがとうございます。WGメンバーの多大なご協力があったからこそ、今回の表彰を頂けたと思いますので、WGメンバー並びに関係者に深く感謝申し上げます。

JAHISヘルスケアPKIを利用した医療文書に対する電子署名規格は、HPKIを用いた電子署名に対して、継続的に検証可能とするための要件を定めたJAHIS標準です。今回の改定は、Webアプリケーション等で使われるJSON形式のデータに対して行う電子署名に対して、署名検証を継続的に進めるためのJAdESフォーマットの組込みを行うと共に、ISO14533シリーズ（電子署名の長期署名プロファイル）等の国際標準における動向を基に改定を行っています。

今後は、ISO17090-4（HPKIを用いた電子署名）との整合性の確保を行っていくと共に、本規格を含めた、JAHIS標準、技術文書の策定及び普及を図っていくことで、ヘルスケア分野のセキュリティ確保に対して貢献できれば幸いに存じます。

引き続き皆様からのご支援、ご協力を頂くと共に、「JAHISヘルスケアPKIを利用した医療文書に対する電子署名規格Ver.3.0」の活用についても、よろしくお願い申し上げます。

功績賞(グループ) 医事コンピュータ部会		電子レセプト委員会 記載要領 電子化WGサブリーダー (株)NTTデータ	
調査研究事業「医療DXの基礎となるシステム施策とその発展に向けた考察」の完遂		しみず ちから 清水 力	
同 委員 (日本電気株) にしぐち たえ こ 西口 妙子	同 委員 (キヤノンメディカルシステムズ株) に かいどう まこと 二階堂 誠	同 委員 (ウィーメックス株) みやわき しん じ 宮脇 伸次	同 委員 (株)NTTデータ ふるかわ なりみち 古川 成道
同 委員 (富士通Japan株) いしかわ こう じ 石川 幸司	同 委員 (日本電気株) しば た まなぶ 柴田 学		

受賞理由：

一般財団法人医療保険業務研究協会・令和5年度受託事業（調査研究事業）「医療DXの基礎となるシステム施策とその発展に向けた考察」において、各社での日常業務とともに、医事コン・各委員会活動として厚生労働省・審査支払機関等への各種政策/施策の検討協力を行う中で培われた専門性を発揮し、各メンバーが本調査研究に主体的に取り組んだ。各自分担した調査研究内容を持ち寄り、延べ18回に及ぶ全体ディスカッション、論文原案作成、論文レビューにて、その成果として約70頁に及ぶ論文をまとめた。

本調査研究は、医療機関現場の視点／ベンダ視点での現状分析・課題整理・改善提案で構成されており、各メンバーのその高い専門性を持って、時節に応じた高いテーマ性に対して、深い見識を示し価値のある研究成果（論文）となっている。

本調査研究成果（論文）は、医療保険業務研究協会より、厚生労働省はじめ関係機関及び一般に公開

されることになっており、JAHISのプレゼンス向上への貢献はもちろんのこと、JAHIS会員が効率的に診療報酬業務の対応ができる環境作りにも十分に貢献するものとなっている。

代表の清水力さんのコメント：

記載要領電子化WGの清水です。

この度は功績賞を授与いただき、ありがとうございました。

一緒に受賞したメンバーのみなさん、おめでとうございます。2023年度の1年間を通して、共に活動し論文を書き上げたメンバーと喜びを分かち合いたいと思います。

論文「医療DXの基礎となるシステム施策とその発展に向けた考察」ですが、目は通して頂けていますでしょうか。論文は、最初に医療DXについて、我々の土俵である診療報酬請求システムに論点を絞りました。その上で、「診療報酬改定DX」を包含した「診療報酬DX」という定義を定め、診療報酬請求システムの現状を振り返ると共に未来像を描いています。もしまだ目を通していない方がいらっしゃれば、一度、目を通して頂けると嬉しいです。

2023年度は年度末に診療報酬改定対応が控えていたため、最後の文章取り纏めはドタバタしましたが、今回の受賞メンバーだけでなく、(株)社会保険研究所の高橋さん、井口さんそして、JAHIS事務局の前田部長にご助力を賜り、無事に論文を書き上げることができました。ありがとうございます。

記載要領電子化WGの活動は新たなメンバーを迎え、2024年度も継続します。

診療報酬改定の施行日が6月になり、論文作成に向けた各メンバーへの影響は少なからず生じると覚悟していますが、2023年度の論文を超えた評価を頂けるように、新たな論文の編纂に取り組んでいきたいと思っています。

功績賞(グループ)		医事コンピュータ部会		調剤システム委員会 調剤標準化分科会 リーダー (三菱電機ITソリューションズ(株))		
電子処方箋運用における薬局レセコンと電子薬歴システムの連携仕様書Ver.1.0 の制定				もり や かずあき 守屋 和昭		
同 サブリーダー (ウィーメックスヘルスケアシステムズ(株)) なか こ とよあき 中湖 豊明		同 サブリーダー (東日本メディコム(株)) の もと ただし 野本 禎		同 委員 (株)EMシステムズ) さ とう かなえ 佐藤 夏苗		同 委員 (ウィーメックス(株)) い で しん じ 井出 真司
同 委員 (ウィーメックス(株)) しお の よしなお 塩野 芳直		同 委員 (ウィーメックス(株)) たけなか ゆうぞう 竹中 裕三		同 委員 (株)カケハシ) かね だ めぐみ 金田 恵		同 委員 (株)カケハシ) しば た まさひろ 柴田 征宏
同 委員 (株)カケハシ) なか お ゆたか 中尾 豊		同 委員 (株)くすりの窓口) しもひら こういち 下平 宏一		同 委員 (株)くすりの窓口) やまぐち ゆ う 山口 遊生		同 委員 (株)グッドサイクルシステム) ほし の つねゆき 星野 恒行
同 委員 (株)ズー) こ いけ ひろ こ 小池 裕子		同 委員 (株)ズー) せき あきひろ 関 晃広		同 委員 (株)ズー) もり まさのり 森 昌典		同 委員 (株)ソラミチシステム) いずたに おさむ 泉谷 理
同 委員 (株)ソラミチシステム) おか だ たつ や 岡田 辰也		同 委員 (株)ソラミチシステム) こんない まこと 近内 誠		同 委員 (株)ソラミチシステム) たか だ いっこう 高田 一功		同 委員 (株)DB Studio) あ べ ほろ き 安部 紘希
同 委員 (株)DB Studio) いのうえ つばさ 井上 翼		同 委員 (株)DB Studio) やす だ ともあき 安田 智暁		同 委員 (株)ネグジット総研) かつ た のぶ や 勝田 暢也		同 委員 (株)ネグジット総研) たかはし としゆき 高橋 載征
同 委員 (東日本メディコム(株)) たけ い しんさい 武井 心彩		同 委員 (株)ファルモ) ひろ い か えい 広井 嘉栄		同 委員 (ウィーメックスヘルスケアシステムズ(株)) し みず かつひこ 清水 克彦		同 委員 (ウィーメックスヘルスケアシステムズ(株)) はま だ さとる 濱田 悟
同 委員 (ウィーメックスヘルスケアシステムズ(株)) まつおか とも よ 松岡 智世		同 委員 (ホワイトヘルスケア(株)) ほん だ たく や 本田 卓也		同 委員 (三菱電機ITソリューションズ(株)) あゆかわ みのる 鮎川 稔		同 委員 (三菱電機ITソリューションズ(株)) や ざわ ひろし 矢澤 浩
同 委員 (三菱電機ITソリューションズ(株)) みやじま つよし 宮島 毅		同 委員 (株)メディカルフロント) や ぎ 八木 さとし		同 委員 (株)ユニケソフトウェアリサーチ) おお く ぼ きみひろ 大久保 公寛		同 委員 (株)ユニケソフトウェアリサーチ) か とう あきら 加藤 明
同 委員 (株)ユニケソフトウェアリサーチ) たかはし ゆういち 高橋 雄一		同 委員 (株)ユニケソフトウェアリサーチ) た なか ゆたか 田中 裕				

受賞理由：

2023年1月から電子処方箋の本格運用が開始された中、薬局における電子処方箋運用において、薬局内システム間（薬局レセコンと電子薬歴システム）におけるインターフェース仕様は定義されておらず、各ベンダにて独自インターフェース仕様が構築されることにより、薬局内のシステム連携が煩雑になり薬局業務に支障が出る可能性があった。これを解決するため、電子処方箋運用における薬局内システム間の共通的な連携仕様の構築することを目的とし、調剤システム委員会 調剤標準化分科会が連携方法やデータセット項目の検討を行い、2023年9月に技術文書として公表した。

技術文書策定にあたっては、厚生労働省や日本薬剤師会など他団体との意見交換会を実施する等、関係者との調整に苦心しながら作業を進めた。

本技術文書は、薬局における電子処方箋普及に向け、JAHISのプレゼンス向上への貢献はもちろんのこと、会員ベンダが効率的にシステム連携できる環境作りに貢献するものとなっていく事を期待されている。

功績賞(グループ) 医療システム部会		電子カルテ委員会 ePath実装ガイド WGリーダー (株)ソフトウェア・サービス ねごろ りょうすけ 根来 亮介	
同 サブリーダー (富士通Japan(株)) おおた さとし 太田 聡司	同 委員 (株)SBS情報システム) たかやま ひであき 高山 秀昭	同 委員 (亀田医療情報(株)) つかだ さとし 塚田 智	同 委員 (株)シーエスアイ) なかむら ともや 中村 友哉
同 委員 (株)シーエスアイ) ながた ゆうき 永田 有希	同 委員 (株)ソフトウェア・サービス) にいばやし たくま 新林 拓磨	同 委員 (株)ソフトウェア・サービス) まつもと たかし 松本 崇志	同 委員 (日本電気(株)) おかだ やすし 岡田 靖士
同 委員 (日本電気(株)) こまい としひろ 駒井 理弘	同 委員 (日本電気(株)) すぎはら しほ 杉原 志穂	同 委員 (日本電気(株)) たかせ ひろゆき 高瀬 博之	同 委員 (日本アイ・ビー・エム(株)) きむら まさひこ 木村 雅彦
同 委員 (富士通Japan(株)) いのうえ たかひろ 井上 貴宏	同 委員 (富士通Japan(株)) どうけ なおゆき 道家 直之	同 委員 (富士フイルム(株)) こしじま こうすけ 越島 康介	同 委員 (株)両備システムズ) なかむら みちのり 中村 道範

受賞理由：

JAHIS ePath実装ガイドは電子カルテシステムベンダーが「ePathのデータ要素と構造に関する仕様書」(Ver.1.0.1)に準拠したパスシステムの開発を進める上で、仕様書を齟齬なく理解するための補助的な役割を担うことを目指した。

これによりePathの普及が進み電子カルテシステムベンダーの間での相互運用性のある電子クリニカルパスシステムの構築、標準化されたパスのデータの蓄積と解析によるクリニカルパスの最適化、更には医療安全の向上と医療の効率化に寄与することを目指して策定を開始した。

その策定にあたり、まずはePathプロジェクト参加メンバーと不参加メンバーの知識レベルの差を埋めるため、知識の底上げと共有から始め、次に各社分担しドキュメントを1から作成し、それをメンバー全員でレビューを繰り返し行うことで精度の向上と記載レベルの均一化を図っていった。

日本医療情報学会およびクリニカルパス学会と緊密に連携を取り、随時確認を取りながら進めることで内容の精度の向上と充実を図り、2023年10月に無事制定した。

代表の根来亮介さんのコメント：

ePath実装ガイド策定WGでリーダーを務めさせていただいているソフトウェア・サービスの根来です。この度は、功績賞グループ表彰をいただきまして誠にありがとうございます。WGメンバーの皆様におかれましては、お忙しいなかでもWG活動に多くのご協力を賜りましたことあらためて感謝、お礼申し上げます。皆様と共に賞をいただけたことを大変うれしく思っています。

ePath実装ガイドは、JAMI標準の「ePathのデータ要素と構造に関する仕様書」を読み進める際に補助的に活用することで仕様書への理解を深め、実装における疑問の解消に役立つことを目的にして構成、作成いたしました。またクリニカルパスやePathに関しても簡単ではありますが、概要を記載していますので、最初から順を追っていただくことで一体的な理解につながるのではないかと思います。

ePathとそれに対応したクリニカルパスシステムがより一層普及することで、データの標準化および活用が進んでいくことが期待されています。ePathへの対応やパスシステム開発などを行われる際には本ガイドもぜひ参考にいただけると幸いです。

WGとしましては、「ePathのデータ要素と構造に関する仕様書」の改版にともなう見直しなどを行っていく予定ですので引き続き皆様のご支援をよろしくお願い申し上げます。

功績賞(グループ) 医療システム部会		検査システム委員会 内視鏡部門システム専門委員会 委員 (オリンパスメディカルシステムズ(株))		
JAHIS内視鏡DICOM画像データ規約 Ver.3.0の制定		おさき たかし 尾崎 孝史		
同 専門委員長 (富士フイルム(株)) たつ た たけいち 龍田 岳一	同 委員 (オリンパスメディカルシステムズ(株)) おおもり しんいち 大森 真一	同 委員 (富士フイルム(株)) みうら ごろう 三浦 悟朗	同 委員 (日本光電工業(株)) えち ご よういち 越後 洋一	

受賞理由：

JAHIS標準「JAHIS内視鏡DICOM画像データ規約Ver.2.0」を改定し「同Ver.3.0」を公開した(2023.8)。本JAHIS標準は、DICOM Standard (以下DICOM規格) 2018e版を参照していた前版から23回分のDICOM規格の改定差分に対応し、Ver.3.0発行時最新であったDICOM規格 2023c版に対応したものである。内視鏡検査では、まだDICOMが広く普及しているとは言えないが、PACSでの画像管理が徐々に増えてきており、内視鏡検査のDICOMによる取扱いが注目されている。このため、本JAHIS標準を最新のDICOM規格に整合させる作業は重要であった。

本改定は、定期見直しにて「要改定」と判断したのが改定の端緒だが、「改定A」の作業承認時（2022.8）に設定した原案納期（2024.1）より大幅に前倒しし、2023.5に原案承認、2023.8に最終原案承認・発行できたが、359ページの大著にもかかわらず、短期かつ少人数（5人）で改定を完了させた。DICOM規格本体の改定のペースが速いため、作業期間が長引けば長引くほど改定工数が増加して完成が危ぶまれる可能性があるという危機感を持ち、効率よく作業を進めることに注力したことは、特筆すべきことである。

※同じメンバーにて、JAHIS標準「JAHIS内視鏡検査レポート構造化記述規約Ver.1.0」で引用される日本消化器内視鏡学会JEDプロジェクト（Japan Endoscopy Database）用語集の国際コード（LOINCコード）取得活動や、標準の普及推進活動として日本IHE協会のコネクタソンの内視鏡部門の審査活動への協力、日本医療情報学会 NeXEHRs研究会 HL7 FHIR日本実装検討WGで策定作業が進められたHL7 FHIR JP Core実装ガイドVer.1.1.2にて追加された内視鏡関係のプロファイル（JP Core Diagnostic Report Endoscopy, JP Core Imaging Study Endoscopy）の技術的検討に、内視鏡部門システムの業界側知見者として協力するなど、内視鏡部門システム分野の標準化に継続的に貢献している。

代表の尾崎孝史さんのコメント：

この度は第14期定時社員総会におきまして、2023年度の「功績賞（グループ表彰）」をいただき、誠にありがとうございました。今回「JAHIS内視鏡DICOM画像データ規約Ver.3.0」の制定にご協力頂きました内視鏡部門システム専門委員会のメンバーの皆様に、この場をお借りして深く御礼申し上げます。

DICOMは放射線分野を中心に世界的に広く普及している医用画像標準です。内視鏡分野においてもPACSでの画像管理が徐々に増えつつあり、内視鏡検査のDICOMによる取扱いが注目されています。今回制定した規約は、参照するDICOM規格を最新（制定時）の2023c版とし、内視鏡検査装置ならびにPACSに、上部・下部消化管内視鏡検査のDICOM画像保存の実装を実現しやすくするために取り纏めたものです。内視鏡分野においてこれからDICOMの実装をご検討されるベンダの皆様の一助になれば、本規約の制定に携わったメンバー一同、大変うれしく思います。

今後も、JAHISの委員会・WGの皆様、臨床の先生方のご指導ご支援を頂きながら、内視鏡分野における標準化の普及・拡大に貢献できるよう活動に取り組んでゆく所存です。引き続き皆様のご指導とご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

